２０２０年度　国語科研究のまとめ

下伊那教育会国語科委員会

Ⅰ　研究テーマ

主体的に学び続ける個が育つ国語科学習の指導と評価
～単元のスマート化に向けた新たな単元構想と、家庭学習との連携～

Ⅱ　研究テーマの視点

視点①　授業作り

・学びを持続・保障するための新たな単元構想（スマート化）について、各校の実践を持ち寄り成果と課題について研究する。
・教科横断的な単元構想の実践報告と、年間計画の見直しをする。
・家庭学習と連動させた授業展開について、各校の実践を持ち寄り成果と課題について研究する。

視点②　自他との関係

・対話的学びを取り入れる工夫について、各校の実践から、教師がどう関わり、ＩＣＴ等の活用をどのように取り入れたか等の視点で振り返り、今後の授業作りに生かせる学習場面について検討する。

視点③　評価

・新たな単元構想における評価をどう進めるかについて、各校の実践から成果と課題について研究する。
・学び続ける個を育てる評価の積み重ねについて、以下の点を大事にして進める。

Ａ　本時のまとめとして、活動後の自分の読みの高まりを振り返ったり、友の読みのよさや参考になったことを伝え合ったりする場面を設定し相互に評価し合う。（**１時間の評価**）

Ｂ　つけるべき力を子ども自身が自覚して学習に取り組み、単元の最後に「つけるべき力」について「何を、誰と、どう学び、どんな力が高まったのか、そして、その力をどういかしていくか」など、単元を通した自己の学びをふり返り、書きまとめる場面を設ける。（**単元を通した評価**）

Ｃ　自己の高まりの要因を、①学習内容・教材文　②友の考え　の両面からとらえ直し、高まりに影響した学び方や友の考えに気づける評価を積み重ねる。（**評価の積み重ね**）

Ⅲ　研究の内容

１　取り組んだ研究の視点について

・感染予防の観点からタブレットを使用しながら、同じ画面を見て対話的学習を生み出した。（小学校）
・家庭学習との連携を図るために、小学校低学年の児童に対して、授業において、タブレット使用方法の指導を行った。（小学校）
・単元をスマート化するために、テレビ授業を取り入れ、紙ベースの学習プリントを配布することで生徒の学びを確認した。（中学校）
・単元のスマート化の取り組みとして、単元の学習をデザインする際、授業で取り扱いたい部分と、最低限の確認で済ませたい部分の軽重を検討した。（中学校）
・音読、意味調べ、共通の問いに対する自分の考えを書くなどの活動を、家庭学習と連携し行い、学校授業での授業時数をスマート化するために取り組んだ。（小学校）
・家庭学習との連携を図り、単元をスマート化するために、学習活動を吟味し、事前に家庭で個人が考えてくる部分と、学校授業でクラス全体が考え確かめ合う活動を決めだした。（小学校）

Ⅳ　指導の実際

１　感染予防の観点からタブレットを使用しながら、同じ画面を見て対話的学習を生み出した実践

（喬木第一小６年）

共同編集を使ったグループ学習～感染を考慮して～

取組

感染が心配されるため、ペア・グループ学習を行うことが困難である。そこで、離れていても作業することができるように、タブレットを使い、共同編集を行った。この取り組みを新教材「私たちにできること」で実践した。

利用したもの：G Suite for Education→スプレッドシート

具体的な様子

単元デザイン

・課題に出会う。
・資源や環境を大切にするために自分たちにできることを提案する文章を書くことを伝える。

食べるものがなくて悩んでいる人がいるけど給食があまるのが気になる。

道徳でウミガメがビニール袋を間違えて食べてしまうことを知った。

学習計画を児童と共に考え、以下のように見通しをもつ。
① 提案する文章の特徴を確かめる。
② テーマを決め、提案のための資料を収集する。
③ 文章の構成を考え、分担して提案書を書く。
④ 提案書を読み合い、友達の意見を取り入れて、直しをする。
⑤ 単元の振り返りをする。

提案する文章の特徴を確かめる。

テーマを決め、提案のための資料を収集する。

文章の構成を考え、分担して提案書を書く。

教科書にのっているのを参考にしよう

環境省のHPに載っているよ！

ぼくは提案１を分担して書くね

提案書を読み合い、友達の意見を取り入れて、清書をする。
①友だちからアドバイスをもらい表現を工夫する。
②提案書を振り返り、清書をする。
③友だちの作品から構成や工夫のよさを見つけ、伝え合う。
④単元を通して、文章全体の構成や展開が明確かどうかについて振り返る

【つけたい力】
提案の理由と内容、効果を明確にして文章を構成することができる。

授業の実際

・九つのグループ（ゴミ問題・地球温暖化の問題・虐待問題・エネルギー問題・食品ロス問題・森林問題・絶滅問題）に分かれ、自分の興味関心のあるものに取り組んでいた。
・文章の構成を考える中で、尋ねたいことがあるときは、ソーシャルディスタンスを保ったまま、お互いに文章のアドバイスをしあっていた。
・提案書を読み合う中では、アドバイスをもとに訂正をし、よりよい提案書を書くことができた。

成果と課題

○一つの提案書の作成に共に取り組んだことで、対話が生まれ、意欲的に取り組んでいた。
○感染予防として距離をとりながら、グループ学習ができた。
○提案の意図や内容が読み手に伝わりやすいように文章を構成できた。
△廊下に飾るのみで終わってしまい、目的意識が弱かった。

２　家庭学習との連携を図るために、小学校低学年の児童に対して、授業において、タブレット使用方法の指導を行った実践　（豊丘北小１年）

① 単元デザイン

【教師の願い】

・再度臨時休業などが行われた際に、自宅でタブレットを使った学習ができるようになってほしい。

・ドリルを繰り返す事で、語彙力を高めていってほしい。

【授業の見通し】

・電源の入れ方、ｅ-ライブラリアドバンスの開き方などを確認する。

・「ひらがな」のドリルを行ったあとに、「ことば」のドリルを行う。

② 授業の実際

１年生の子どもたちとタブレットを使って学習を行った。電源を入れたり、アプリを開いたりする動きは、教師の予想以上に子どもたちは慣れていて、比較的スムーズに行うことができた。しかし、ｅ-ライブラリアドバンスに入る時に、アプリが開かなかったり、読み込み中になってしまったりして、指示通り開けないことで、「分からない！」と助けを求める子どもが何人か出てしまった。

ｅ-ライブラリアドバンスのドリルまで入ると、「ひらがな」のドリルは子どもたちも真剣に取り組み、正解すると大きく出てくる丸や正解の音がうれしい様子で、楽しみながら進めていた。その後「ことば」という単元のドリルを行うと、１年生の内容にも関わらず、問題文に漢字が使われていたので、子ども達が問題を解けなくなってしまった。その日はもう一度「ひらがな」に戻り、ひらがなのドリルを進めた。

もし再度臨時休業となった場合、自宅でタブレットを使って学習することは十分可能だと思うが、問題を解いていると時も保護者が一緒についていないと解くこと（読むこと）のできない問題が多数あった。

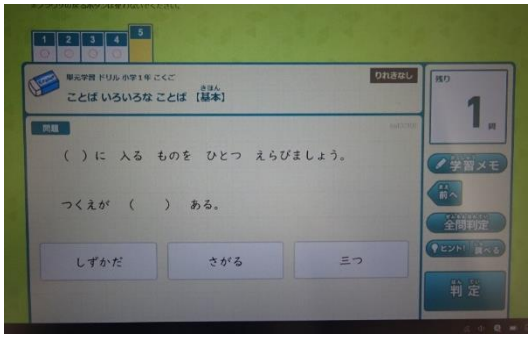
③ 成果と課題

【成果】

・タブレットＰＣの使い方に慣れていたので、タブレットを使った学習に抵抗がない。

・プリントではないので、より多くの問題を解くことができる。

【課題】



・１年生にも関わらず、問題に学習していない漢字が使われている。

・問題の途中で止まってしまい、読み込みが長くて白い画面のままになってしまう時がある。

・何を指示しているか分かりにくい問題がある。

３　単元をスマート化するために、テレビ授業を取り入れ、紙ベースの学習プリントを配布することで生徒の学びを確認した実践　（阿智中１年）

（１）単元名　「新しい視点へ　『ダイコンは大きな根？』稲垣英洋」

①単元構想における教師の願い

・自宅学習では、自主的に学習を進め、授業動画を観て理解を深めてほしい
・中学校で初めての説明的文章の学習なので、説明文の一般的な学習の流れを確認してほしい

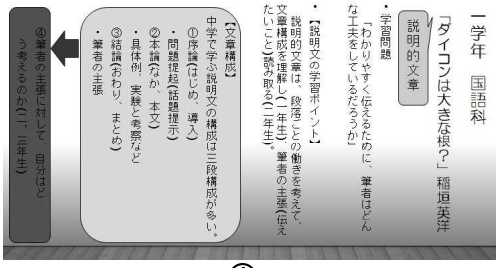
②単元デザイン（単元の見通し）

・単元を通してつけたい力は「段落の働きに着目して文章を読む力」とする
・単元を通して使う学習プリント（提出用と授業ノート用の２種）は、臨時登校時に渡す
・学習プリントは生徒が各自で取り組み、公開前に回収する
・授業動画で、説明的文章の学習の流れを説明し、学習プリントの解説をする
・登校時の授業にて、学習プリントの確認・解説と、定着をはかる単元テストを行い、単元テストの得点を評価に加える

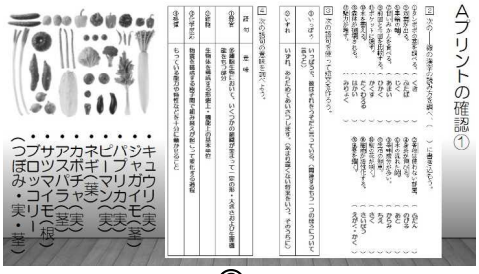
③授業の実際（家庭での学習）

・臨時登校日に学習プリントを配布した。生徒は、状況をよく把握し、自分で学習を進めていく必要感を感じている様子だった
・動画の撮影（学年が２クラスで、教科担任が２名いるが、２クラスとも同じ動画を観て学習を進められるように、学年で１つの動画を撮影した）
・２回目の臨時登校日に、提出用の学習プリントを回収し、生徒の記述の様子を教科会で確認する。概ね、空欄もなく、しっかりと記入してあった。
・動画の放送（分散登校が開始されてからの放送となった）

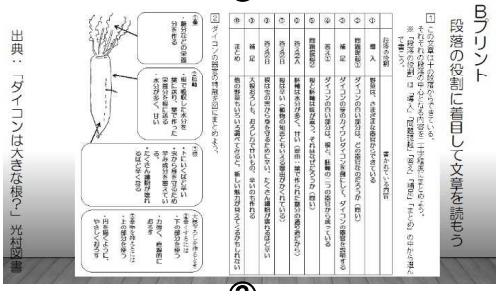
※以下は、放送で使用したプレゼンテーションのページである。①②の解説を１５分の動画にまとめ、③④⑤⑥の解説を２０分の動画にまとめた。



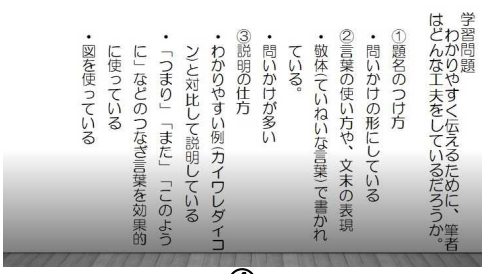
①



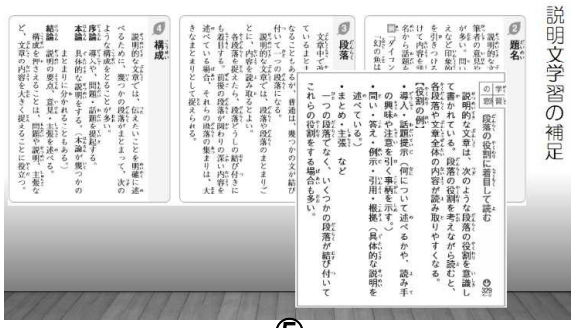
②



③



④



⑤

⑥

④授業の実際（臨時休業開けの取り組み）

・臨時休業開けの授業では、語句調べ等の言語事項の解説は、動画視聴のみとし、学習問題の答えを中心とする２回目の動画を、教室で再度視聴し、学習プリント（授業ノート用）の記述の様子やを確認し、質問を受けるために丁寧に机間指導を行った。生徒は遠慮することなく、わからない点について質問してきた。全体に紹介したい質問については全体で確認し、「段落の働きに着目して読み、筆者が文章をわかりやすくしている工夫点」の理解定着に努めた。

・単元テストの平均点は基礎編８１点、発展編６８点であった。発展編の記述式問題に苦戦している生徒が多いと感じた。

・定期テストに取り入れた説明文問題（２０点満点）の小問平均点は１３．６点であった。

※これは、昨年度の定期テスト（同程度の問題）の平均点が１４．６点であったことを考えると、臨時休業中の学習と通常の授業とに大きな差がなく、定着がはかれたと考えられる。

・授業時数は、通常時に４～５時間の単元であるが、学校で行った授業は２時間であった。

⑤成果と課題

本校生徒のテレビ授業風景（写真は数学科）

【成　果】

・単元をスマート化して、授業時数を確保するために、テレビ（オンライン）授業を利用しての単元展開には、多くの生徒の自主的な学習を促し、同時に学力の定着をはかることができる可能性があることがわかった。

・通常授業の際、単元の初めに取り組むことの多い「語句調べ」や「新出漢字の読み確認」等の学習活動を、今後も家庭学習と連携させ、授業中に行わない展開もできることがわかった。

・学習プリントに、生徒がしっかりと考え、記入してある状態での授業では、教師が丁寧な解説をすることで、対面での指導がなくとも、力の定着がはかれる可能性があることがわかった。

【課　題】

・本校の学区は、ケーブルテレビの加入率が９０％以上であったため、ケーブルテレビ局に協力していただくことで、生徒が家庭での視聴をすることができたが、どこの学校でもできる取り組みではない。

・ケーブルテレビに未加入の家庭に対しては、動画を録画したＤＶＤの配付と、少人数で密にならない配慮が可能だったので、放送日の放送時間に登校してもらい、授業を受けることができたが、準備や対応が大変であった。

・「話す・聞く」（特には「話す」）の単元は、双方向のリモート学習でしか成立しないので、本校の取り組みのような、生徒が一方的に受信する形の授業では、狙ったとおりの力をつけたり、評価をしたりすることができない。

・家庭での学習時間をきちんと確保できるように、保護者の協力が不可欠であり、保護者の負担は大きいものであると考えられる。

・学習への意欲が低い生徒や、学力の定着に時間のかかる生徒に対しては、学習プリントの設問の難易度を吟味した上で個人追究をさせないと、設問の意味が分からずに解けない状態でテレビ授業に臨むことになってしまう。通常の授業であれば、可能な限り個別対応しながら、設問を一緒に考える時間を確保できるが、テレビ授業では、その点の支援ができない。

・これからの取り組みで、双方向のやりとりが可能なリモート授業を行ったとしても、タブレット画面でのタッチペンによる記述や、ワープロで打ち出した文などの評価では、国語科の「書く」という活動の評価は難しい面がある。やはり、書く活動の単元の場合は、紙ベースでの生徒の取り組みが必要になると考えられる。

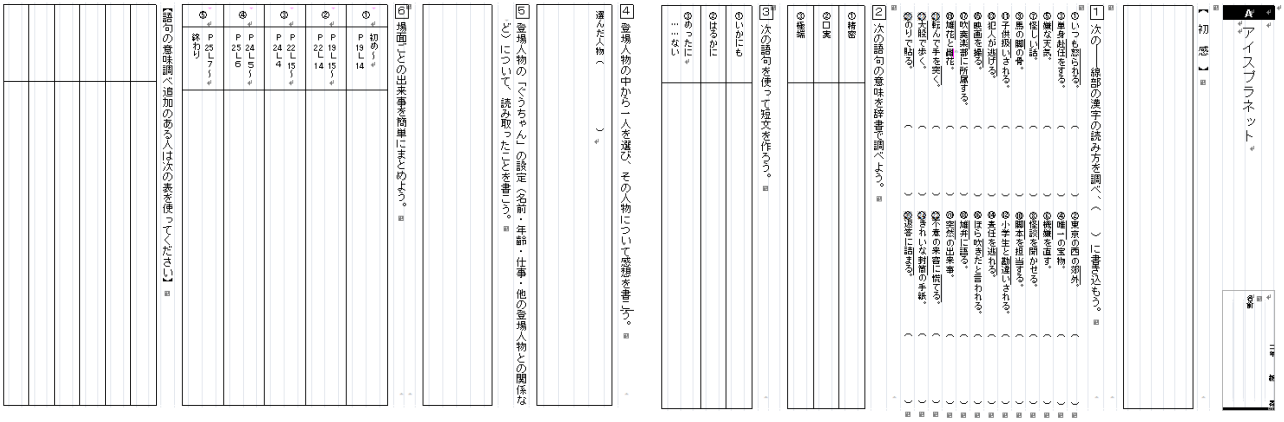
４　単元のスマート化の取り組みとして、単元の学習をデザインする際、授業で取り扱いたい部分と、最低限の確認で済ませたい部分の軽重を検討した実践　（飯田東中２年）

（１）単元デザイン

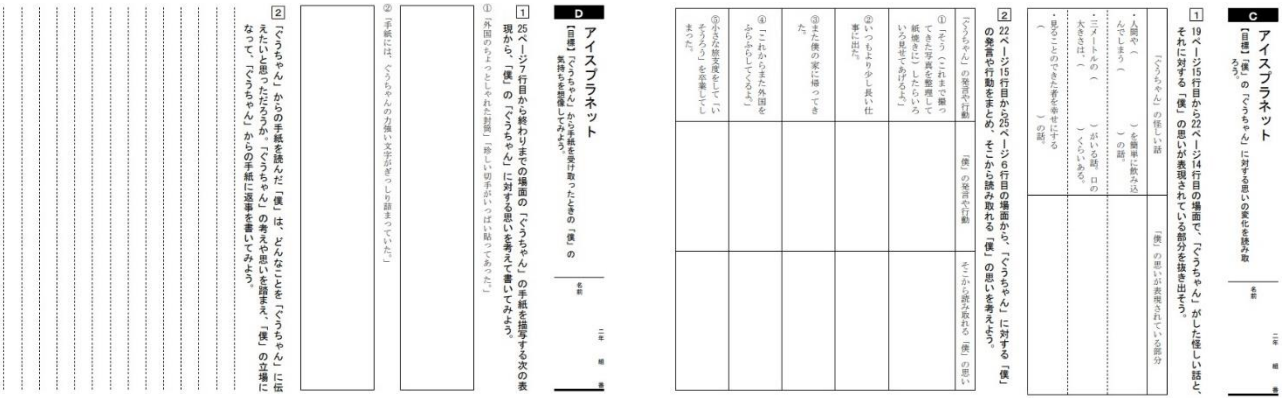
①初発の感想、語句調べ、場面ごとの出来事，登場人物の心情をプリントに書く
　教科書を読んで自分の考えで書く　・・・家庭学習
②場面ごとの出来事の確認。場面ごとに登場人物の心情を全体で交流し考える（その１）
　場面を分けて心情の根拠の部分を考える　・・・第１時
③場面ごとに登場人物の心情を全体で交流し考える（その２）　・・・第２時
④登場人物の心情の変化をグラフ化する。大きく変化したところの理由を考える
　心情の視覚化。グラフの大きく変化したところを考え，主人公の心情を考える・・第３時
⑤テスト形式の単元プリントで理解度の確認　・・・第４時
⑥振り返りシート　・・・家庭学習

（２）授業の実際

本来の授業の場合であれば、本文を全員で読み、初発の感想を書くなどの時間や登場人物の心情を書くなどの個人の考えを書く時間をとっていた。しかし、感染防止対策のため、個人でできることや個人の考えを書く時間は家庭学習とし、授業の時間は、考えの共有やお互いの考えに対しての意見を伝え合う時間となった。


A　アイスプラネット。
【初感】
名前　二年　組　番
1 次の――線部の漢字の読み方を調べ、（　）に書き込もう。
①いつも怒られる。（　）　②東京の西の郊外。（　）
③単身赴任をする。（　）　④幽霊の家。（　）
⑤厳しい話。（　）　⑥校舎を閉かせる。（　）
⑦子供図いされる。（　）　⑧鉄棒を逆上がりする。（　）
⑨犯人が現行する。（　）　⑩小学生と勘違いされる。（　）
⑪絵画を鑑ろう。（　）　⑫本任を週れる。（　）
⑬吹奏楽部に所属する。（　）　⑭ぼら吹きと言われる。（　）
⑮埋没と埋没。（　）　⑯埋没に陥る。（　）
⑰転んで手を突く。（　）　⑱突然の出来事。（　）
⑲不本意な条件に悩む。（　）　⑳ぎれいな教室の手紙。（　）
㉑のりで貼る。（　）　㉒怪盗に誘う。（　）
2 次の語句の意味を辞書で調べよう。
①格密　②口実　③臨時
3 次の語句を使って短文を作ろう。
①いかにも　②はるかに　③のったに。…ない
4 登場人物の中から一人を選び、その人物について感想を書こう。
選んだ人物（　　）
5 登場人物の「ぐうちゃん」の設定（名前・年齢・仕事・他の登場人物との関係など）について、読み取ったことを書こう。
6 「場面」ごとの出来事を簡単にまとめよう。
①初め～P19 L14
②P19 L15～P22 L14
③P22 L15～P24 L4
④P24 L5～P25 L6
⑤P25 L7～終わり
【語句の意味調べ追加のある人は次の表を使ってください】

家庭でできる内容をプリントとして配布し、新出漢字や語句調べ、場面の確認など個人でできるものをプリントでまとめられるようにした。


C　アイスプラネット
【目標】「僕」の「ぐうちゃん」に対する思いの変化を読み取ろう。
名前　二年　組　番
1 19ページ15行目から22ページ14行目の場面で、「ぐうちゃん」がした怪しい話と、それに対する「僕」の思いが表現されている部分を抜き出そう。
「ぐうちゃん」の怪しい話
・人間や（　　）を簡単に飲み込んでしまう（　　）の話。
・三メートルの（　　）がいる話。口の大きさは、（　　）くらいある。
・見ることのできた者を幸せにする（　　）の話。
「僕」の思いが表現されている部分
2 22ページ15行目から25ページ6行目の場面から、「ぐうちゃん」に対する「僕」の発言や行動をまとめ、そこから読み取れる「僕」の思いを考えよう。
「ぐうちゃん」の発言や行動
①「そう（これまで撮ってきた写真を整理して紙焼きに）したらいろいろ見せてあげるよ」
②いつもより少し長い仕事に出た。
③また僕の家に帰ってきた。
④「これからまた外国をふらふらしてくるよ」
⑤小さな拍手喝采をしていそろう」を卒業してしまった。
「僕」の発言や行動
そこから読み取れる「僕」の思い
D　アイスプラネット
【目標】「ぐうちゃん」から手紙を受け取ったときの「僕」の気持ちを想像してみよう。
名前　二年　組　番
1 25ページ7行目から終わりまでの場面の「ぐうちゃん」の手紙を描写する次の表現から、「僕」の「ぐうちゃん」に対する思いを考えて書いてみよう。
①「外国のちょうどしられた封筒に、珍しい切手がいっぱい貼ってあった。」
②「手紙には、ぐうちゃんの力強い文字がぎっしり詰まっていた。」
2 「ぐうちゃん」からの手紙を読んだ「僕」は、どんなことを「ぐうちゃん」に伝えたいと思っただろうか。「ぐうちゃん」の考えや思いを想ま え、「僕」の立場になって、「ぐうちゃん」からの手紙に返事を書いてみよう。

また、家庭学習として取り組んだため、その日の授業で取り扱いたい生徒の考えを、プリントをコピーして配布することで、全員の考えをすぐに共有することができた。全体の場で考えを述べられなかった生徒の考えも取り上げることができた。

配布した友のプリントがあることで、同じ考えをもつ生徒が考えを発言しやすかったようで、普段なかなか発言ができなかった生徒の発言機会も増えた。また、プリントから疑問も出てきて、「どうして〇〇さんは、△△だと思ったの？」とのつぶやきもあり、事前に内容を読んできた自分の考えと友の考えの違いを比較した発言も見られた。授業で時間をとって個人の考えを書かせていたときと活動の内容自体に大きな差は見られなかった。

③成果と課題

【成果】

・ワークシートを使用し，登場人物の心情などの個で考えてくる時間を家庭での学習としたことで，授業は全体での考えを交流したり，まとめたりする時間としたことでほとんど同じ内容を扱う時間は、昨年より授業時数を３時間削減できた。

・普段発言が難しい生徒が、自分の考えと似た生徒を見つけることで発言しやすくなった。

・場面や設定など、その単元で最低限の確認で進めたいところと、授業で取り扱いたい場面に時間をかけて取り扱いたいところの軽重をつけて取り組めるようになった。

【課題】

・家庭学習をしていない生徒は理解についていけないことが大きかった。家庭学習の徹底が必要となる。

・家庭学習のプリントを光村が出しているものを使用し、生徒の実態に合わせて、共通ではなく自作プリントの作成がよかった場面も見られた。

・コロナウイルスによる臨時休業中であれば、プリントも時間をとって取り組めたが、予習のような形でプリント学習も取り入れていくためには、適切な量になるように内容を検討していく必要がある。
現在は白文帳やワークを宿題の中心に置いているので、漢字学習の時間の取り方も含めて家庭学習の在り方も検討できれば良い。

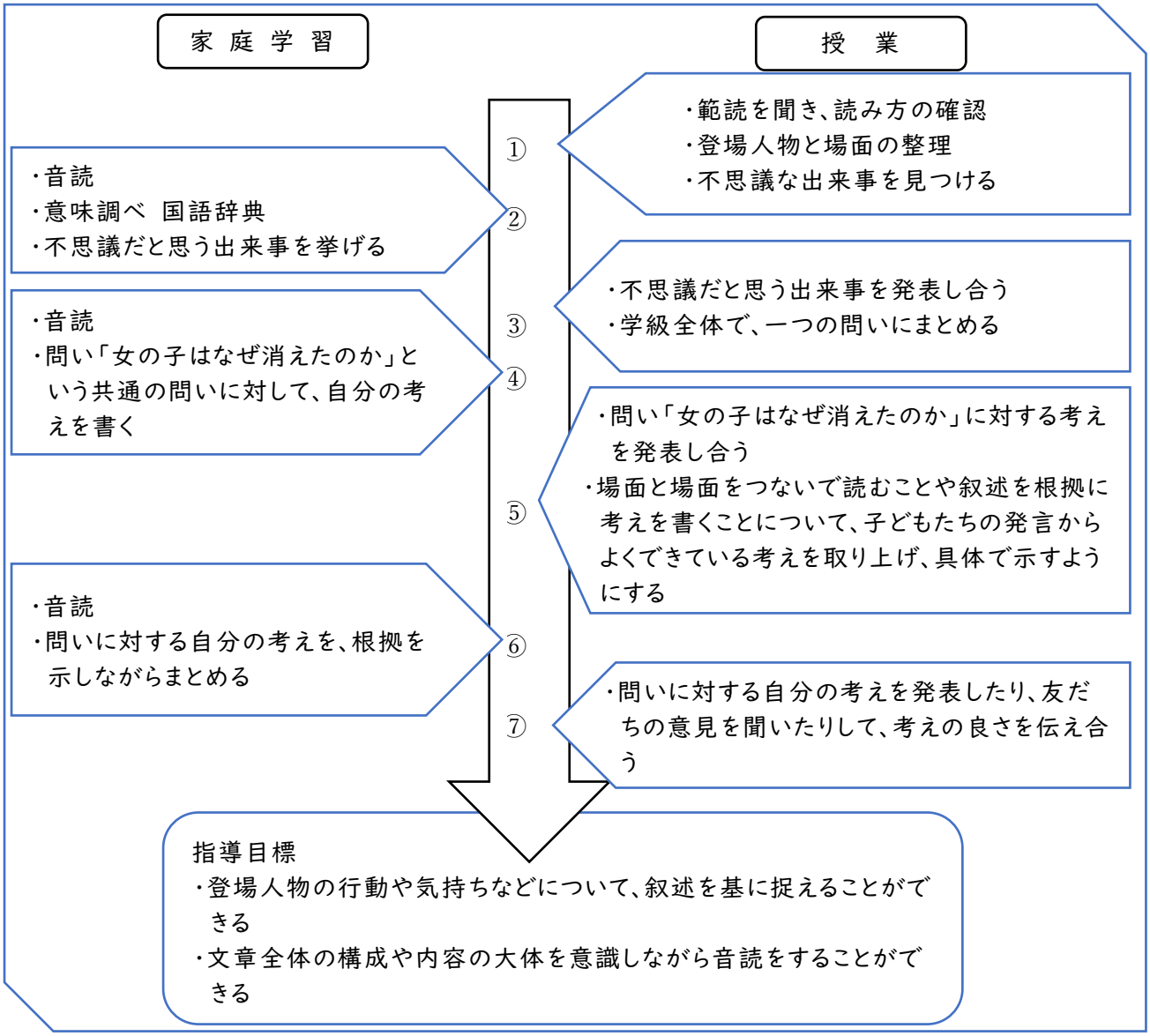
・プリントの家庭学習が Google ドライブ等のネットを通じて、生徒から教師側や全体に送信できるようにしていれば、家庭学習で困っている生徒のヒントにもなり、教師自身も事前の授業展開も立てやすくなると感じた。

・正解プリントを印刷し、配布していれば、解くことができなかった生徒にも授業にすぐ参加できた。

５　音読、意味調べ、共通の問いに対する自分の考えを書くなどの活動を、家庭学習と連携し行い、学校授業での授業時数をスマート化するために取り組んだ実践　　（下條小４年）

（１）単元名「白いぼうし」

①　単元デザイン　　７時間扱い



②　授業の実際

・家庭学習で、自分の考えを書いてくることは、難しい児童もいたが、授業で書くことが難しかったことを全体で共有し、書けていなくても安心して授業に臨むことができた。
・授業で聞いた友だちの意見や、板書を参考にして、どの児童も問いに対する考えを書くことできた。
・叙述を根拠に自分の考えを書くことができ、発表をしてお互いの考えの良さを伝え合うことができた。

③　成果と課題

・７時間扱い中３時間を家庭学習で補うことができた。家庭学習で自分の考えを持ち、授業に臨むことで「早く発表したい。」と授業に対する意欲が増す姿が見られた。
・臨時休業中に意味調べを宿題としたら、児童の抵抗感は強かったが、国語辞典が素早く引けるようになったことと、意味調べをして本文を読むと理解が増すことから、意味調べの楽しさを感じることができ良かった。

６　家庭学習との連携を図り、単元をスマート化するために、学習活動を吟味し、事前に家庭で個人が考えてくる部分と、学校授業でクラス全体が考え確かめ合う活動を決めだした実践　（追手町小３年）

（１）単元名「もっと知りたい、友だちのこと」

①単元デザイン

時	場	めあて・活動	主な手立て
1	家庭	友だちに知らせたいことを決めよう。	家庭で話題を決めてくるようにする。事前に例を示し、簡単なメモに残せるようにする。
2	学校	単元の目標を確認し、質問や話の聞き方について考え、整理しよう。	決めてきた話題をもとに、単元の目標を確認し、よりよい質問の仕方、話の聞き方について考え、整理する。また、「きちんとつたえるために」のページもこの時に扱う。
3	家庭	初め・中・終わりを意識して話をする練習をしよう。	メモをもとに、初め・中・終わりの構成をもとに家で練習をするようにする。
4	学校	話を聞いて、質問しよう。	グループに分かれ、距離をとりながら話す聞くの活動を行う。前時の質問や話の聞き方をふりかえり、デジタル教科書の動画と合わせて活動の見通しを持つ。
5	家庭	友だちの話で心に残ったことをまとめよう。	家庭で活動のまとめができるように前時の終わりに何をまとめるか確認する。
6	学校	友だちの話で心に残ったことを友だちに伝え合おう。	家庭でのまとめをもとにしながら伝え合うようにする。伝え合った後、たいせつの確認をし、観点毎にふりかえりを行って単元を終える。

分散登校の中で、また、分散登校後の授業作りの中での家庭と学校の学習の接続を図る単元デザインにする。話すことについての活動を主に家庭で行い、学校では質問の仕方や話の聞き方について考えたり、実際に話したり質問したりする等、聞くことについての活動を学校で行うこととした。

【単元の目標】

◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つことができる。」

○相手を見て話したり、聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。

○日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。

②実際の授業

子どもたちは家庭での練習をもとに、友だちに向かって自分の決めた話題についてすらすらと話をしていた。学校では相手の話の中心は何かと探るように聞いている様子が見られた。急いで終わらせようとする様子も見られず、質問したいことを何十回も質問している様子が見られた。ふりかえりでは「話の聞き方に合わせて質問できた」という子もいた。

③成果と課題

事前に話す練習をしていたので、子どもたちの意欲が比較的高かった。また、本単元は特に聞くことに重きを置いた目標であるが、学校での聞き質問する活動に、時間を十分に割くこともできた。話すこともないがしろにできない単元だが、例年の進め方と違い、話すことについて思考する場面を家庭で十分に持つことができ、聞くことについて、友だちとともに十分に考え、活動を充実させることができた。時間がなくて、活動が途中で終わるということもなかった。

課題としては、話題を決め切れていない児童への支援である。例年の進め方ではそういった児童を学校で支援することができる。家庭への説明と協力のお願いを事前に十分行う必要がある。

7　視点に関わって見えてきたこと

視点①　授業作り

・臨時休業における取り組みでは、各校、児童生徒の学びを持続・保障するために、特に家庭学習との連携を工夫し、単元学習に組み込む必要がある。
・家庭学習との連携が図れれば、単元の授業数を減らしたり、学び（児童生徒につけたい力）を焦点化したりすることが可能である。

視点②　自他との関係

・新しい生活様式で、対話的学習を取り入れるためには、ＩＣＴ等の活用が不可欠であり、教師の関わり方が重要である。
・児童生徒個々の、家庭学習の取り組みに差はあるものの、どの学校の実践でも概ね積極的に取り組む子どもが多く、学習カード等、自分の考えがしっかりと準備されていると、活発な対話につながる。

視点③　評価

・家庭学習での取り組みを、単元の評価に組み込むことは更に検討していく必要があるが、家庭で取り組んできた学習カードなどを用いて行う学校授業を評価し、積み重ねていくことが重要である。
・授業１時間のまとめとしての評価と、つけるべき力を子ども自身が自覚して取り組んだかどうかを見る単元の評価は、臨時休業時の単元展開であってもできることなので、積み重ねていく。

Ⅴ　本年度の研究の結果から、次年度、更に研究すべき課題は何か

◇ＩＣＴを活用し子どもが使用する学習ソフトについての教材研究と、教師の活用技術の向上。
◇臨時休業となった場合に対応できる年間指導計画の見通しの立て方。
◇家庭学習と、学校授業とのつながりを生かせる単元構想。
◇家庭学習において、児童生徒個々の取り組みの差に対する指導支援の方法。